

## 今後の委託プロジェクト研究に係るブロック提案会概要

1. 日 時：平成26年7月8日 13:30～18:30

2. 場 所：関東農政局 共用大会議室501

3. 概 要：

(1) 開会挨拶：島田研究推進課長：(略)

(2) 出席者紹介：司会者が以下の順で中央テーブル着席者紹介（敬称略）

- ・ 染谷農場 染谷 茂
- ・ 有限会社 グリーンハートティアンドケイ 津久井 富雄（大田原市長）
- ・ 瀬尾牧場 瀬尾 亮 様
- ・ 群馬県農業革新支援専門員 石井 隆志
- ・ 静岡県農業革新支援専門員 長藤 亮彦
- ・ 農林水産省産学官連携コーディネーター 佐藤 龍太郎
- ・ 農林水産省産学官連携コーディネーター 高野 博幸
- ・ 本省（島田課長ほか4名）

(3) ブロック提案会の趣旨について：説明者 小笠原調査官（略）

4 議 事

(1) 生産現場の研究開発に対するニーズについて

小笠原調査官：資料2「農林水産省の研究開発制度の概要」について説明（略）

（外部有識者から研究開発への意見、要望等）

染谷氏：40年間、稲作中心に経営している。自給率向上も大事であり、農業に大切なことは、地域の資源を大切にすることだと思う。遊休農地の利用、高齢者等の人材も活用し農業に貢献してもらうことが必要だと思う。稲作は嗜好品でなく、食糧であり、安く作り、安く売ることが米作りだと教えられてきた。そのように取り組んでいるところ。（研究成果を生かすには）末端の農家がうまく利用できるかや、技術と農家の結びつきが大事なことと考える。

津久井氏：私からは、酪農、肉牛、繁殖牛ということで先ほど説明があった論点2「高パフォーマンス畜産への挑戦」について提案したい。昨日、革新的技術実証「閉鎖型畜舎」建設の地元説明会の場で、住民から「高収益生より、まずは環境改善が先だろう」との苦言を呈された。新たな道は、周りの環境を含む環境保全型の畜産経営だと思う。その意味で、論点2「家畜ふん尿処理や新たな悪臭低減技術の開発」等を進め、地域に認められる畜産を目指すことが最終的に国際競争力を高めることにもなる。これから益々周辺環境、時代背景をとらえる畜産経営が大切であり、皆さんからも提言いただきたい。

瀬尾氏：栃木県では繁殖和牛農家の減少により、子牛の出荷頭数が減っており、危機感を持っています。

繁殖メス牛10頭前後で経営している農家がほとんど（83%）で、こういう小

規模の農家が老齢化でやめているのが原因です。このような小さな農家が続けられる技術開発も重要だと思います。

また、受精卵着床率がまだまだ低く受精卵の受胎率向上の研究は重要です。雌雄産み分け技術もまだまだ低く80%以上の確立まで持つていくことが必要です。

野草を与えることで、繁殖成績が上がります。野草と繁殖との関係に関する研究もお願いしたい。

野草を刈る刈払機に関する研究開発もお願いしたい。

石井氏：資料2の論点3「産地強靱化技術」は群馬県でも大事だと認識している。2月14日の大雪により、県では759haの農業用施設が被害を受け、422億円の被害金額であった。国の支援により9割程が再建に向けて取り組んでいる。

また、当県内には最近では最高気温が40℃を超える高温地域も有り、水稻の乳白米が発生していることから、産地強化のため、予測できない気象条件に対する新しい技術・品種開発が必要と感じる。

論点1「収益力向上技術」の「資材高騰対応」については、当県においても課題と認識している。施設園芸で肥料の投入量低減に取り組むが、基準づくりが難しいので取り組んでいただきたい。同様に燃油高騰対策は、色々手を尽くしているが、根本的に解決していない。何らかの研究課題として提案していただきたい。

長藤氏：現状把握、課題設定、調査分析、目標達成評価等は普及における手法と共通している。生産現場への普及含めて体系化されたものになっているか、そういう視点でお話を伺いたいと思う。

(全体を通じた意見等)

佐藤氏：素晴らしい課題が多数あった。今後、多くのメンバーが加わったコンソーシアムが結成されることと思われるが、これからマッチングを図るものなどもあった。これから課題を形成するには、準備も必要だと思う。課題のマッチングには、当協会（JATAFF）に相談していただきたい。

染谷氏：自動化の研究よりも、耐久性を増す研究が欲しいというのが自分の思いだったが、提案課題を聞くことにより、今後農家との連携により省力化、多収化などが必要なのだとわかった。研究者と農家とのパイプをしっかりとやらないといけないのではと思った。

高野氏：本日は、発表された課題以外にも多く(全体で68課題)の提案をいただいたところ、その中にも興味がある課題があった。これらを含めすべてがいかに農業・食品産業を成長産業に結びつけるかと考えられたものであった。ただ、研究のための研究にならないよう強い農林水産業につながるものにしていただきたい。

津久井氏：私からの冒頭の提案に対する大半の答えを提案者からいただいた。畜産業では施設の建設にあたりコスト高の傾向があり、建築基準法等の緩和改正も必要。TPPに対抗するためには、生産コスト低減が原則であり、これには行政にもしっかり取り組んでいただきたい。

また、バイオプラント等環境保全型の取組、国が進めている飼料イネの推奨と併せて、高カロリーであるデントコーン収穫の機械化、サイレージ化、コントラクター化の実現もお願いしたい。最後に、魅力のある農業として新規就農者が生活ができ幸せ感を実感できる適正規模は50～100aと考えており、これらを支援できることも重要と考えている。

石井氏：群馬県の試験研究としても現場が抱えている課題は、3年間程度で現場に展開できるよう普及と一緒に取り組んでいる試験課題もある。今回の課題についても現地の普及に繋げて行って欲しい。

長藤氏：今回の提案会では非常にレベルの高い研究提案を伺うことができた。将来、このような研究の成果があがってきたときに、現場で受け皿となる生産者や経営体、企業が育成されるよう、私どもも努力していきたいと考えている。

以上